

東京大学オープンキャンパス

私にとって今回の東京大学見学会・企業大学訪問で1番印象に残っているのは東京大学のオープンキャンパスです。東北大学のオープンキャンパスにも行きましたが東北大学とは全く雰囲気が違いとても有意義な時間を過ごすことができました。

私は1日目と2日目の午後に東京大学に行きました。私の第一志望校は東京大学なので行くのをとても楽しみにしていました。

1日目、門をくぐるとまずその雰囲気に圧倒されました。キャンパス内の道路の両側には歴史を感じる建物が並び、その奥には安田講堂がありました。その様子はテレビで見るともずっと迫力がありました。安田講堂の脇を通り最初に私が訪れたのは理学部1号館でした。理学部1号館はとても新しい建物でした。私はそこで生物学科の模擬講義を受けました。タイトルは「教科書の生態学 VS 研究現場の生態学」で話をしてくださった館野正樹教授は高校の教科書の編集にも関わっている方でした。今回の話の内容はまだ習っていないものですが、説明がとても分かりやすくしっかり理解できました。最初の話は陰葉と陽葉についてでした。教科書では陰葉にとって有利な条件は光が弱いとても狭い範囲のみとなっていますが、実際には光が強い時も陰葉の方が光合成の効率は良いそうです。また、陽葉は風や虫などからの安全を優先したものだそうです。次の話題はブナ林についてでした。日本の植物の垂直・水平分布は細く見ると違っているそうです。また、なぜ熱帯では植物の種数が多いのかなど、まだ解明されていないことも多いそうです。この講義を受けて、東京大学では教科書を超えた最先端の研究が行われていることを実感しました。

2日目も、まず理学部1号館に行きました。最初に行ったのは地球惑星物理学科・地球惑星環境学科の模擬講義でした。地球惑星物理学科と地球惑星環境学科は地理や地学を研究することができる学科で、東京大学の中で私が一番興味のある学科でした。講義のテーマも「大地の破壊.2016年熊本地震の謎に迫る」と私の好きな分野でした。内容は熊本地震の特徴、そして大分でも大きな揺れが観測された点についてでした。特に大分で大きな揺れが観測されていたのは私も気になっていたことでした。講義では現地での観測結果やシュミレーションを使いその謎に迫りました。そういった現地での詳しい観測などをもとに研究を行える環境にとっても魅力を感じ、自分もここで学びたいと強く思いました。また、講義の最後に学科についての詳しい話がありました。この学科の中でも、現在の大地の揺れや変形に迫る観測地理学・測地学、過去の地震の発生履歴を調べる地質学・地形学、地震の物理法則を調べる地震発生物理・強震動地震があるそうです。自分もこれだけ細かく分かれているとは知らず、これらの中でどれが一番自分が学びたいものか考えていきたいと思いました。

その後は東大生協の食堂で昼食をとりました。私はカツカレーを注文しました。注文する

とすぐに盛り付けられて出てきました。安くて美味しかったです。

次に法学部を見に行きました。法学部では法学と政治学の模擬講義を受けました。講義に使われた教室はテレビで見るとも広い教室でした。最初は法学でした。内容は近代以降の租税と法律についてでした。明治の地租が導入された流れなどの説明が分かりやすかったです。特に移転価格税制の話が印象に残りました。移転価格税制は日本の会社が海外に輸出する際の税についてのことで子会社に安く売るか独立の第三者に高く売るかで日本と輸出先の国に入る税が変わってくるということが面白かったです。また、今世界で BEPS と呼ばれる多国籍企業が合法的にどの国でも税金を払わないということが行われていることも知りました。次の政治学は累進課税や社会保障についての話でした。内容が思考実験など心理学みたいな感じで少し驚きました。法学や政治学はそこまで興味のある分野ではなかったため、今回の話は未知の世界のように感じる内容も多くとても新鮮でした。

この二日間で東京大学は偏差値だけでなく歴史や環境など様々なところで日本一の大学なのだと実感しました。また、ここなら私が研究したいことも思う存分研究できるのだとわかりました。そしてやっぱり自分は東京大学に行きたいという思いを再確認することができました。

OB・OG との懇談会

また、東京の大学に進学した OB・OG との懇親会もとても印象に残りました。

東京大学に進学した先輩からは、1・2年生は全員受ける教養学部前期課程についての話を聞くことができました。東京大学は他大学と違い2年生までは全員教養学部に入りますが、そこでは必修科目以外はどんな分野の講義でも受けることができるそうです。それは私にとってとても魅力的なものでした。今のところ私は大学で地理を学びたいと考えていますが、他にも数学や物理学、化学、さらに経済学など学びたい分野がいろいろあります。そしてそんな私の願いを東京大学の教養学部前期課程では叶えられます。先輩の話を聞いてやっぱり東京大学に行きたいなと思いました。

また、ある先輩からはもっとずる賢くなれと言われました。これはただ授業を受けるのではなく、弱点を集中して勉強するべきだということだそうです。その先輩は自分が必要だと感じれば内職もありだと言っていました。さすがに私は内職までしようとは思いませんが、授業中でも無理に授業に合わせず、自分のペースで自分に必要だと思うことをやっていきたいです。

また、別の先輩からは東京大学に入るために1年のうちに必要な力についての話を聞きました。その先輩によると、1年の時点でセンター試験の英語で85%、数学1・Aで90%、数学2・Bのセンター試験時まで習った範囲で90%を取らなくてはならないそうです。去年、新聞でセンター試験の問題を見たときはほとんど解くことができませんでした。特に英語はわからない単語が多すぎて全く意味を取れず、数学に関してはほぼ全てが未知の世界と

いう感じで全く解けませんでした。それなのに、あと半年もしないでそれらの大半を解けるようになるなんて話を聞いた時は全く信じられませんでした。ですがその先輩はそれを達成して東京大学に入ったわけですし、私も東京大学のオープンキャンパスや先輩方の話を聞いて東京大学に入りたいと強く思っているので絶対達成しようと思いました。そのためまず英語はとにかくたくさん単語を覚え、文法も先取りで進めるようにしたいです。数学も先取り学習を進め授業ではしっかり応用問題を解けるようにしていきたいです。

先輩方からいろいろな話を聞いて、東京大学に入ることの難しさ、そして入ってからどれだけ楽しいことが待っているかを知ることができました。先輩方の話を忘れずに受験に向けた勉強を頑張っていきたいです。



